

天竜川ダム再編事業 恒久的な堆砂対策運用検討委員会 設立趣意書（案）

天竜川は、これまで幾度も洪水による被害を受けており、昭和58年9月には戦後最大規模の洪水が発生し、旧天竜市（現浜松市天竜区）などで甚大な被害が生じている。

その天竜川流域は、急峻な地形と破砕・変成作用を受けた脆弱な地質構造により土砂生産が活発なため、土砂流出対策を実施している。また、天竜川は急流で水量も豊富なため、治水・利水を目的とした多数のダムが建設されてきたが、堆砂によるダムの機能低下や土砂移動の連続性の遮断といった問題が発生している。

そのため、天竜川では、土砂に関する問題を流砂系全体で総合的に解決するべく、「天竜川流砂系総合土砂管理計画【第一版】」を平成30年3月に策定し、関係機関と連携して総合的な土砂管理を推進している。

そのような中、天竜川ダム再編事業は、既設の利水専用ダム（佐久間ダム）を有効活用して新たに洪水調節機能を確保し、天竜川中下流部の洪水氾濫から人々の暮らしを守るとともに、恒久的な堆砂対策により、新たに確保した洪水調節機能を維持しつつ、ダム地点における土砂移動の連続性を確保し、遠州灘沿岸の海岸侵食の抑制等へ寄与することを目指し事業を実施している。

そこで、本委員会では、天竜川ダム再編事業で実施する恒久的な堆砂対策について、民間における土砂の利活用の在り方も含め、恒久的な堆砂対策の具体的な運用・実施方法について、学識者等から意見・助言を得るとともに、運用・実施方法について河川利用者等と合意形成の構築を目指すものである。